

Die (友情) Freundschaft

事務局：
〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3
秋田公立美術大学 野村研究室内
<http://www.jdg-akita.org>
(018)888-8110
nomura@akibi.ac.jp

姉妹都市提携 30 周年記念 パッサウ市民交流団来秋歓迎晩餐会

副会長 渋谷義博

Eine einmalige Gelegenheit im Leben (一期一会)

2014.10.29 着信メール

Lieber Yoshi, wir sind wieder wohlbehalten nach Passau zurueckgekehrt.

Ich moechte Dir und der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Akita fuer die Einladung und die grosszuegige Gastfreundschaft ganz herzlich danken.

Der Empfang und die schoene Zeit in Akita werden uns stets in bester Erinnerung bleiben. Wir haben uns in unserer Partnerstadt Akita sehr wohl gefuehlt und waren tief beeindruckt von eurer Herzlichkeit und Freundschaft.

パッサウ市文化局長 R.ヴァハトファイトル氏が、総勢 25 名のパッサウ市民とともに、2014 年 10 月・秋分の候、「秋田市ーパッサウ市姉妹都市提携 30 周年記念式典」ほか各種記念事業への参列を目的とした秋田訪問を終え、パッサウへ帰郷後、即日発信されたメールに記載されていた氏の秋田に対する深い想いと感謝の念の一節である。

抄訳は下記に示す。

TEXT；ヨシ！ 我々は再び元気にパッサウへの帰郷を果たした。

君と秋田日独協会が、私たちが熱くもてなしてくれたことに、衷心より感謝の念を捧げたい。秋田における歓迎の催しと素晴らしい日々は、私たちの心に最高の思い出となって残るだろう。私たちは皆、姉妹都市秋田に大いに魅了され、君たちの真心と友情に心を奪われた思いである。

秋田日独協会主催歓迎晩餐会は、「姉妹都市提携 30 周年記念式典」が開催された翌日、即ち 10 月 25 日（土）午後 6 時から、千秋公園内のフレンチレストラン・千秋亭で執り行われた。

佐川禎子会員、稲村綾子会員他数名の会員により、日本の精神文化を体験していただくべく”お茶”でもてなし、2F のバンケットホールに移動後、E.トレーガー副市長が絶賛した”イヤタカ太鼓”の躍動感あふれる演奏を合図とし、松田至弘会長の厳肅かつパッサウからの友人達を歓迎する横溢な精神に満ちた挨拶、ご来賓である秋田市の石井周悦副市長、パッサウ独日協会 S.ラウシャー会長、そして、パッサウ市 E.トレーガー副市長よりそれぞれ熱いメッセージを頂戴し、宴は始まった。

ヴァハトファイトル文化局長のアコーデオン演奏（バイエルン民謡）は聴衆を大いに魅了し - 聞くところによれば、氏はパッサウにおいても度々演奏する機会がある由 -、氏の演奏に触発された会場にはダンスの輪が咲き乱れ、秋田側参列者による”ローレライ&野バラ（ドイツ語版）”は、パッサウの友人達も巻き込んでの大合唱となった。

当夜参列した各位の表情に、ドイツで好んで用いられる表現句である”Eine einmalige Gelegenheit im Leben”、即ち、一期一会の「こうして出会えたことを慈しみ享受する精神」が燦然と輝いていたことは、構築された深い信頼関係に裏打ちされた草の根市民交流が、今後ますます私たちの日常生活に浸透していくであろうことを予感させてくれた。

. そのことを、会員の皆様と共に大いに喜びたい思いである！





秋田市主催の祝賀会の様子
パッサウ市交流団員が「荒城の月」を日本語で合唱



秋田日独協会主催晩餐会の様子
秋田側参列者が「浜辺の歌」や「野バラ」等をドイツ語で披露。
最後の「ローレライ」ではパッサウ市交流団員も加わっての大合唱となった。

《秋田日独協会主催晩餐会に参加した会員2名の方からご寄稿いただきました》

「パッサウ友好団とご一緒して」

会員 柳原せい子

2014年10月23日木曜日午後 JAL1265 便でパッサウ市訪問団一行 24 名が秋田空港に無事に到着いたしました。我々は、歓迎垂れ幕とドイツ国旗で、到着口でお待ち致しました。私のドイツ滞在を癒してくれたラウシヤー会長をはじめ、一行 24 名が続々と空港到着口からいらっしゃいました。皆様を拝見して、私にとっての半年ぶりのドイツの雰囲気を感じる事もできました。

次は、もう早速に『高清水酒造御所野蔵』の見学に参りました。靴を脱いでスリッパでの見学に、ドイツの皆様様の戸惑いと驚きがありました。さりげないですが、これが一番目の文化の違いではなかったでしょうか？夕食は、御所野イオンのグランブッフエでした。寿司からパンまであり、それぞれが美味しく頂きました。食べながら自己紹介などもして、和やかに時間はすぎました。長旅の疲れも感じさせないパッサウの皆様でした。

翌日は、朝一番に平和公園に高田景次氏の墓参りに行きました。高田景次氏を知っている方々が少なくなっており、世代交代を少々感じました。好天に恵まれ、天徳寺視察、旧奈良家視察、セリオン見学も気持ち良く過しました。昼には、市役所の『友好の鐘』を揃って聞く事が出来、穂積市長始めとして、お互いの友好を改めて深めました。今回のパッサウ市友好団からの希望で、予定にはなかった『友好の鐘』の見学が実現できた事は本当に素晴らしい事でした。市役所の皆様の大歓迎も受け、心温まるものがありました。

昼食は稲庭うどんでした。秋田の我々にとって、誇るべき秋田を代表するメニューで、天ぷらざるうどんでした。天ぷらは、美味しげに食べておりましたが、稲庭うどんを食べれない方々が数名いらっしゃいました。ここでも文化の違いを感じた私でした。その理由が、だしなのか、うどんの食感なのか、ドイツ語で聞けなかった私に未熟さを感じました。夜の姉妹都市提携 30 周年記念式典・祝賀会は、厳かに友好的に執り行われました。

3日目は、大仙市の旧池田市庭園視察、角館へとバスツアーでした。好天に恵まれ、旧池田市庭園でのお茶のお手前、伝統芸能の踊り、田沢湖ビールでの昼食、角館武家屋敷、青柳家視察、提灯体験等の盛り沢山の行事でした。旧池田市庭園では、野口裕子副会長のお琴の演奏も行われておりました。提灯体験は、手に持つ大き目の提灯に絵付けするものでした。



左側：柳原さん
右側：ラウシヤー会長

パッサウの皆様の大膽な絵付けに驚きました。日本人だと、もうイメージがあり、せいぜい文字の大小くらいのバリエーションですが、明るい色使い、大きな絵柄の構図に、国民性の根本的な違いを感じてしまいました。また、旧池田市庭園では、説明看板に英語が欲しいと言われ、もっともだなど感じました。色々質問され、ドイツ語でも、英語でも、

うまく回答できなく歯がゆく残念でもあり情けなかったです。この体験が、再びのドイツ語学習の意欲につながればと思っております。夜の千秋亭での日独協会主催の歓迎会では、本当に友好を深めました。副市長、エーリカ・トレーガーさんの貫禄、市政に携わる女性のバイタリティーに感動しました。今回は行政代表団 10 名も加わり、皆様が英語も話せるインテリジェンスの高い訪問団でしたが、とてもフレンドリーでした。再び皆様にお会いしたいと心から思い、秋田市、秋日日独協会の皆様のご足労にも感謝致しました。

私の 1 年間のドイツ滞在中は、ラウシャー会長によって癒されました。語学授業と授業の休みにラウシャー会長宅に数回ホームステイさせて頂きました。そして、パッサウから帰って来た私は、ドイツ語が前より話せるようになっておりました。日独協会の会員であった事に感謝した私でした。ネットで一連の写真を見たドイツで知り合った友人からは、日本人は何と親切なのか、と感嘆のメールがきました。アメリカの彼女からは、自分の住んでいる所と、ドイツのフライブルクは姉妹都市だが、こんな行事はない、と。ロシアの彼女からも、なんて素晴らしいんだと。私は、これが『おもてなし』と答えました。

今回、訪問団の皆様は『どうも』を連発しておりました。『ありがとう』のかわりですが、何にでも使える便利な言葉で、思わず微笑んでしまいました。聞いたら、ガイドさんから教えてもらったとの事で、日本語の便利さを改めて認識致しました。パッサウで我々は、『ダンケ』の連発でしょうか？

4 日目の午前の飛行機で訪問団一行は秋田を後にしました。又の再会を約束しあつての、しばしの別れでした。



アコーディオン演奏に合わせて自然に始まったダンス！

「思い出がまたひとつ」

会員 赤坂睦子

日独協会から案内が届いた。姉妹都市提携 30 周年記念行事の一つとして、パッサウ市から来日する方々との祝賀会を開催するというものだった。最近案内をいただいても欠席で返すのが常だったが、でも今回は……。そう、24 年前、長男が小学 6 年生の時にパッサウに行った際にお世話になったホストファミリーのママ（ガブリエレ・フロイトリンクさん）が来日するという。懐かしさがこみ上げてきた。私たちが大事に優しく接して下さったママ、お元気かしら？ちょっとドキドキ。いまだに英語を話せない私だが、「ムツコ」と呼んでくれてどっと安堵した。当時私が持参した名刺をきれいに保管してくれていた。私は当時と今の写真を持って行った。

彼女の娘ベロニカは写真家としてヨーロッパ中を駆け回り活躍しているという。我が息子は結婚して 2 児の父となっている。話をしていると、



中央：ガブリエレ・フロイトリンクさん
右側：赤坂さん

当時のことがよみがえってきた。私も息子もドイツ語はおろか英語もわからない状態だったが、身振り手振りで一生懸命話をしようがんばった。パパが兵隊のクルミ割り人形をパクパクさせ壊してしまったのを思い出し、思わずブツ。言葉の通じない私をキッチンへ誘い出し、リラックスさせてくれたママ。心の交流だった。子供同士は絵を描いたりコースターを積み重ねるゲームをしたり楽しそうだった。まさかまたお会いできるなんて思っていなかったが、24 年ぶりにお会いできてとっても嬉しく楽しい一夜だった。



民族衣装で参加して下さった交流団員

《東京開催のイベント》

日独若者交流会「茶・禅」

日時：10月25日（土）10：30～15：00

場所：清瀬市下宿 地域センター内「せせらぎの家」「旧森田家」

「日独若者交流資金使用イベント『茶禅一味』」

秋田日独協会主催～日独若者交流茶会の奮闘記～（日独若者交流促進資金活用）



会員 高田真生（都内在住）

好天に恵まれた10月25日（土）、ほぼ1年かけて構想を練り、準備してきた秋田日独協会主催の「日独若者交流茶会」が、都下清瀬市内の築180年の古民家「せせらぎの家」で開催された。郊外なので、申込者が何人集まるか心配したが、東京日独協会職員、タベアさんのお蔭でドイツ人は留学生12名、東京在住者5名の参加を得たほか、日本人17名、スタッフ17名、総勢51名の参加での本格的茶席となった。

14歳の息子が習うお茶の師匠、石州流不昧派の遊佐宗公先生のアドバイスに基づき、「お茶の精神は、一期一会ですから、出来る限りのおもてなしをして、本格的な茶席にしなくては」と、8月から秋田の上菓子を幾つも取り寄せ、菓子器選びをした。その結果、漆はドイツでは珍しいのではと、1席目は裏に「梨肌」という高度な技法を用い、瓢箪型の枠の中に秋の風景が淡い金粉で描かれた、江戸時代の漆器、2席目には、将棋の駒型の面白い形で、蓋に「瓢箪と駒」の絵の描かれた漆器が選ばれた。肝心の会場は、5か所を下見して、結局「せせらぎの家」とし、点心弁当も百貨店でパンフレットを10種ほど集め、先生と何カ月も吟味を重ねて決定。前日、13時から4時間、遊佐社中の方々と一緒にお道具運びと大掃除をした。道具は、菓子器や茶碗どころではなく、立礼（りゅうれい：正座の苦手な人用の、椅子に座っての茶席）机から椅子、巨大やかんまで、まるで引っ越しのようだ。お昼用の湯呑茶碗も出来るだけ良い物をと、各家庭から40個持ち寄った。そのままでも十分綺麗だったが、お客様を気持ちよくお迎えする為、社中の皆さんは汗だくになって、時間ぎりぎりまで、床はもちろんのこと、棧、柱、土間や照明の埃まで、家をピカピカにした。お客様が茶室に入る前の、手を清める「つくばい」や周りの飛び石も眩いばかりに磨き上げられ、建物全体の空気が清々しくなった。茶席というと、優雅にお茶を

頂き静かに時を過ごす、というイメージしかなかった私は、ここまで時間と手間を無償でかける日本のおもてなしの精神に、さらに圧倒された。見事な秋晴れとなった当日は、スタッフは全員、お客様をお迎えする為、着物姿に。参加者が次々到着し、紅葉色のチケット（茶席独特の縦書きチケットで、何カ月も推敲を重ね、遊佐社中の方が作成）を渡し、「つくばい」で一人一人手を清めると、2部屋に分かれ、早速お席が始まった。お茶を点てる亭主を務めたのは30歳男性と32歳女性の若手生徒さん。ドイツの方々の反応がドキドキだったが、日本人も茶席は初めての方が多かった。全員が亭主の一举一動興味深げに見つめ、きちんと正座をしていた。中には辛そうだが、頑張って耐えている姿もあり、それでも足を崩そうとしない様子が、「さすが忍耐強いドイツの学生！」と多くのスタッフに好印象だった。2回のお茶席後、そこから徒歩3分の、清瀬市重要文化財「旧森田家：江戸後期の築220年の家」を見学した。市の職員さんが、普段は滅多に見られない「台所のかまどの火入れ」をし、当時の様子を特別に再現して下さいました。説明に来た学芸員さんが、大勢の海外の客を見て緊張してしまい、肝心の建物についてではなく、明治から現代までの清瀬の土



右から2番目、前から2列目が高田さん

地の値段や人口を、15分間も説明された。家の中を見学して「せせらぎの家」に戻ると、点心席がしつらえてあった。秋田のお酒を1杯ずつ飲み交わし、和やかなお昼となった。頑張って選んだ点心を美味しそうに食べている皆さんの姿にほっとし、とても嬉しかった。食後は、デザートに・・・と主人の生徒によるチェロの演奏。曲目はバッハと日本の四季の歌で、皆熱心に聴き入っていた。

最後は、「お茶には禅の理解が必要」と、遊佐先生が長年師事する臨済宗の無一和尚による、座禅体験の時間。是非「茶禅一味：茶と禅は同じ一つの事の意」である座禅も体験して頂きたいという、先生たってのご希望とご厚意で、当初予定にはなかったが、急に実現できる運びとなった。「自分の命は、自分のものだけではないという事を体感する為、世界中誰もが24時間し続けている『呼吸』を、敢えて痛い座り方で訓練する。すると、どんな喜怒哀楽の状態、どんな喧噪の中でも、心を穏やかに保てるようになり、自分自身を高めていくのが禅」という講話が、参加者全員に新鮮だったようだ。また、「座禅で使う棒は神様を表し、教える側が、習う側が自分と同レベルに達したと感じた瞬間に、誉める意味で叩く」というのには、私も驚いた。たった20分の座禅体験だが、石州流は武家茶で、武士が戦の合間にも、心を鎮める為にお茶を一服したという事を思い出し、「茶禅一味」の意味が、少し分かった気がする。最後に、このイベント開催に際し、ご協力下さった全ての方々へ心から感謝申し上げます。

《イベント報告》

■平成26年10月16日～19日

「秋田オクトーバーフェスト2014(後援:秋田日独協会)」秋田市エリアなかいち(にぎわい広場)に、ドイツビールを始め数種類のビールが登場。

■平成26年10月31日

「平成26年秋田県文化功労者章」副会長・野口裕子さん(箏曲の普及・発展)と理事・羽川武さん(音楽文化の普及・発展)が表彰を受けました。おめでとうございます。

■平成26年11月4日

「秋田市一パッサウ市姉妹都市提携30周年記念コンサート」秋田アトリオン音楽ホールにてパイプオルガン、サクソフォーン、トランペットのコンサートが開催されました。演奏家3組のホームステイ先として、当協会の3家族がホストファミリーを引き受けてくださいました。会員の佐々木常雄さん、堀野久さん、佐藤裕司・雅子ご夫妻、ご協力ありがとうございました。

《今後の予定》

■平成27年2月14日

「平成27年新年祝賀会」(秋田キャッスルホテル)

■平成27年2月20日

「桂三若と唄くワインのタベ」(後援:秋田日独協会)

■平成27年7月(予定)

「平成27年度定時総会・講演会」

ドイツ語で格言・諺: Die Welt wird nicht bedroht von den Menschen, die böse sind, sondern von denen, die das Böse zulassen.

世界が危険なのは悪人のせいではなく、傍観者のせいだ。(アインシュタイン)

《編集後記》

第2回の会報は秋田市一パッサウ市姉妹都市提携30周年記念関連の記事が盛りだくさんとなりました。新しい出会いがあったり、感動の再会があったり、個人レベルではできない貴重な体験ができたことに感謝しています。

会員の皆さんからの寄稿やメッセージ、そして、ドイツに関する話題などを広く募集します。送り先は、表紙の事務局の住所へ、または、メールにてお送りください。

秋田日独協会ホームページ <http://www.jdg-akita.org/>

法人会員

(株)秋田魁新報社様・(株)JTB東北秋田支店様・日本エアサービス秋田営業所様・(株)日本旅行東北秋田支店様